

事業名：亀山市スポーツ鬼ごっこ大会プロジェクト



提案者：三重スポーツ鬼ごっこ連盟

相手方：スポーツ推進 G

提案型：市民提案

協働の形態：共催

事業費：行政 10,699円、市民 54,000円

● 事業の目的 ●

スポーツを通じた健康づくりを目指す亀山市。
スポーツ鬼ごっこの公式大会を開催し、この機会を通じて世代を超えてスポーツに親しみ、
交流により絆を深めること。

● 事業の内容 ●

<練習会>

- ① 令和6年 7月15日(月・祝) 午後1時30分～3時30分 野登小学校体育館 参加者数：72人(8チーム)
② 令和6年10月19日(土) 午後6時30分～8時30分 神辺小学校体育館 参加者数：88人(10チーム)

<スポーツ鬼ごっこ大会>

令和6年12月 1日(日) 午前10時～午後4時 西野公園体育館 参加者数：98人(11チーム)

<その他>

告知チラシの印刷配布

● 市民の役割 ●

告知チラシ配布
練習会運営
大会運営

● 行政の役割 ●

告知チラシ印刷
練習会運営補助
大会運営補助

● 事業の成果 ●

(団体)

市内で活動するスポーツ鬼ごっこクラブ、サッカークラブの他にこの大会に向けて新たに結成されたチームが2チーム、個人参加者による混成チームも作ることができた。また当初計画にはなかったが亀山中学校、亀山中部中学校の協力により部活対抗の中学生リーグも開催できた。出場全11チーム中6チームが大人と子どもが一緒に出場するチームで、残りのチームも監督や顧問、応援をする保護者と作戦を立てたり声をかけ合ったり、当初の目的は達成されたと感じている。

(行政)

練習会や大会本番を通じて、学年や小学生、中学生の世代を超えての声掛けや応援など交流により絆を深める様子がうかがえた。当初は参加があるか心配していたが、個人参加による混成チームも発足し、新たな交流に繋がったのではないかと考える。スポーツを通じた健康づくりはもとより、世代を超えた交流に発展し、事業目的を果たせたと感じている。

● 協働の効果 ●

(団体)

通常ではできない先の予定で会場を抑えられ、長期的な事業計画を立てることができた。亀山市が共催することで事業により信用が加わり、新たにスポーツ鬼ごっこに取り組む人を発掘できたと考察する。

例えば、夏季の小学校の体育館での練習会の開催については亀山市と綿密に打ち合わせをする中で参加者の健康を考え自由参加にするという方針に変えるなど、必要な場面によって事業を慎重に進めることができた。

(行政)

市だけではノウハウがない「スポーツ鬼ごっこ」を、連盟が有するノウハウやネットワークを活かして開催することができた。当初の役割分担により、市は各小中学校へのチラシ配布、本番当日の会場予約をし、協働事業としての役割を果たすことができた。ただし、大会当日の受付名簿の共有や参加費の受領、開会式や閉会式の進行についての打合せが不足し、戸惑う場面があった。

参加申込の受付や練習会、大会本番の連絡など、ほぼ連盟が主体となって進めていただいたり、練習会への参加を自由参加にするなど柔軟に対応し、双方のノウハウを活かして事業を実施できたと感じる。

● 協働事業評価 ●

○評価基準…大変よくできた(5点)よくできた(4点)できた(3点)あまりできなかった(2点)全くできなかった(1点)

評価の視点	行政	団体
事業目的を共有することができましたか。	3	2
役割分担や責任を明確にすることができましたか。	4	4
相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	5	5
互いの自主性・自立性を尊重し、対等な関係で事業を実施できましたか。	5	5
互いの持つ情報等を共有することができましたか。	3	3
事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	4	4
合計点	47/60	

活動の様子

